

郷土の誇り
赤水

重文決定に寄せて（下）

佐川春久



86(明和5)年に描かれ
た。子孫である長久保甫氏
が寄贈し、高萩市歴史民俗
資料館が所蔵している。

今回の国の重要文化財指定に向けた文化庁の調査で、扶桑の横の「〇〇」は消去の印であることが分かった。今まで、この「〇〇」

赤水の代表作である「赤水図」とともに、「改製日本分里図」についても、ぜひ見ていただきたい。

長久保赤水が手書きで製作した「改製日本分里図」は、赤水の代表作「改正日本輿地路程全図」(通称・赤水

（図）の原図といわれている。赤水は、出身地の赤浜村（現・高萩市赤浜）で20年以上の歳月を費やして、この「改製日本分里図」を作

多くの修正痕や和紙を
何枚も重ねて書き直した跡
が残されており、赤水が考
証しては、その都度、修正し
ていたことが見て取れる。

は、扶桑を強調しているものとばかり解釈していたが、今後は「改製日本分里図」と改めて表記するべきにある。

28年目にして大きな節目を迎へ、今年4月の会員は524人を数えるに至った。今後は、国の重要文化財指定記念として、「赤水図」

世界に1枚の手書き地図

製した。まさに、汗と英知の結晶である。

これまで、この地図は「改
製扶桑（日本）分里図」と
称されてきた。

また、この地図は「安井春海の所考」として、初めて緯度を記入した日本図で

手書きで製作された「改製日
本分里図」 大きさは、縦0・846
トメ、横1・348トメ。 17

本海には竹島と松島が描かれている。扶桑とは日本の異称である。

せていく方針だ。
(長久保赤水顕彰会長)